

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(2020年8月25日～8月31日)

2020年9月2日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領、プーチン露大統領と電話会談(8/24)
- ミンスク市内で10万人以上が参加したとされる抗議運動「新たなベラルーシの行進」が実施(8/23)
- カラニク前保健大臣をグロドノ州知事に任命(8/22)
- マケイ外務大臣、EU各国外相に対する声明を公表(8/21)
- 政権移行調整評議会、第一回会議開催、幹部会メンバー選出(8/19)

【ルカシェンコ大統領動静】

●プーチン露大統領と電話会談(8/30)

両者は、二国間協力、ベラルーシ国内情勢など、焦眉の問題について協議した。また、両者は、近い将来直接会談することを合意した。同会談は、ルカシェンコ大統領のモスクワ訪問時に実施される予定。

(8/30 大統領公式ホームページ)

●オルシャ市、視察(8/28)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

(8/28 大統領公式ホームページ)

●産業省傘下組織発展のための会議(8/27)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・産業企業における仕事の生産性が高ければ高いほど、より多くの収入が国家予算に入ってくる。そして、国家は、大規模な社会プログラムに財政支援できるようにする。予算を分析した結果、今年分の社会プログラムに対する財政支援に問題は見当たらない。これに関連し、大企業を中心とする産業企業の働きは、我が国の経済の礎である。

・今年を試練の年である。まず、新型コロナウイルス感染拡大により、多くの市場が閉鎖され、資金や商品の移動が実質的に停止となった。そして、国家を内側、外側から揺らす複雑な政治事情が加わった。この圧力による国内経済状況への影響を感じている。

誰も我々に無償の支援を与えてくれはしない。我々は自身の力と可能性を信じるしかない。

・製品販売は我々の鍵となる課題である。そこから、外貨を獲得し、ベラルーシルーブルが強くなる。誰かが来て買ってくれるのを座って待ってはいけない。

・2020年1月～7月において、ほぼ全ての産業分野で成長速度が上がり、完成品在庫が減少した。これは良い兆候である。2021年は、新たな五カ年計画の最初の年である。

・我が国に対する外交的戦争が最高レベルで仕掛けられている。他に呼びようがない。マスメディアや情報分野は、この闘いに敗北した。

・反体制派は、国内財政市場を揺らしている。我々はベラルーシルーブルの急落を許容しない。国民がドルを購入したければ、どうぞ。我々は変動相場制であり、需要が増えれば、高くなる。需要が減れば安くなる。また、ベラルーシは保有している金や外貨を使用していない。3ヶ月前、金・外貨を国に戻すよう指示し、全て戻っている。それゆえ、悲惨な状況になることはない。どこかのATMでドルが不足しているかもしれないが、既に国立銀行に同状況を解決するよう指示した。

・現在、ベラルーシはロシアと10億ドルの再融資の交渉を実施している。私は既にプーチン露大統領と合意し、現在ゴロフチェンコ首相が、ミシュスチン露首相と交渉を実施している。また、ロシアや中国向けの輸出は調子良く、外貨獲得が見込まれる。

・私は対話への用意がある。従業員組合や学生組合の代表と座って話そうではないか。農業従事者にも

発言権はある。専門家や教師、医師も発言すべきである。しかし、街頭から、政府との交渉の場に座れる人は誰もいない。ベラルーシにおいて、街頭からの圧力で対話は成り立たない。

・大学生について、我々は、大学における勉強のために軍役期間の延期を許している。勉強したい者は大学で勉強すれば良い。街頭に出てデモに参加し勉強したくない者は、法的措置を取る。

・(地元選挙区の国会議員リコールの呼び掛けに対し) やらせておけば良い。我が国の国会議員の大多数は弱くない。

(8/27 大統領公式ホームページ)

●スノプコフ第一副首相、セリヴェルストフ財務大臣と会談(8/25)

ルカシエンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・国家公務員の給与は国内平均給与の 80%、年金は、国内平均給与の 40%であるべきである。退役軍人は、不屈であり、彼らを怒らせてはいけない。

・対外債務について、どのように返済し、調達していくのか、報告して欲しい。新型コロナウイルスの対策や治療に加え、大規模集会によって経済状況は圧迫された。この大規模集会はお金にならず、むしろ間接的な損失が発生しているだろう。

・海外市場はどのような状況であろうか。(ロックダウンによる経済停滞を終え)経済は機能しているだろうか。

(8/25 大統領公式ホームページ)

外交

●在ベラルーシ米国・EU・英国・スイス大使館、共同声明発出(8/28)

ジャーナリストを標的にすること、独立メディアと野党のウェブサイト封鎖、インターネット・アクセスの遮断、及び平和的市民の拘束は停止されなければならない。ベラルーシ当局に自制を呼びかける。

●外務省、ポーランドに対し、公然とした内政干渉の

試みに対し、断固たる抗議の意を表明(8/27)

●マケイ外務大臣、ラブロフ露外務大臣と電話会談(8/27)

両者は、外国による内政干渉や情勢不安定化の試み、一方的な仲介の強制は容認できないこと、ロシアによるベラルーシ国民に対する連合国家としての支援を確認した。

()

●マケイ外務大臣、モートン英国欧州担当国務大臣と電話会談(8/26)

「制裁を伴う干渉の試みは容認できない。」

●マケイ外務大臣、駐ベラルーシ EU 代表部大使、EU 各国大使と会談

「政権側によって示された根拠に基づく調整評議会メンバーに対する追求は容認できない」

()

●チハノフスカヤ候補、欧州議会外務委員会臨時会合にオンライン出席

ベラルーシにおける革命は、地政学的革命ではない。親露か、反露か、親 EU か反 EU かではなく、民主的革命である。ベラルーシ国民の要求は純粋に自由で公正な選挙である。

(8/25)

経済

軍事・内政

●捜査委員会、調整評議会幹部会メンバー、コヴァリコヴァ氏(ババリコ陣営代表)、アレクシエーヴィチ氏(ノーベル文学賞受賞者)を呼び出し。()

●国営企業グロドノ窒素従業員 28 名、無許可大規模集会に参加した廉で逮捕される。

●最高裁、チハノフスカヤ候補による、大統領選挙結

果の偽造に関する不服申し立てを棄却(8/25)

●裁判所、調整評議会幹部会メンバー、コヴァリコヴァ氏(チハノフスカヤ候補代理)、ディレフスキー氏(ミンスクトラクター工場ストライキ委員会会長)に対し、無許可行事の組織の廉で10日間の拘留を決定。(25日)

●最高裁、大統領選挙候補者 3 名からの選挙結果無効認定の申し立てを却下(25日)

●移行調整評議会の記者会見

我々は、国家を統治している人間が、ミンスク市内中心部で、非常に奇妙な格好をして、非常に奇妙な武器を持って走っていたことを、非常に奇妙に感じている。ベラルーシ国境近くで武力による脅威があるという表明を聞いてきたが、我々は事実、ミンスク市内で武力を使って脅そうとしている具体的な人(当館注:ルカシェンコ大統領の意)がいるという証拠を見た。仮に、ベラルーシ国民の 80%が彼を支持していると考えているならば、なぜ彼は、恐怖で鉄条網や兵士の鎖に隠れていたのだろうか。

3 ルカシェンコ大統領の隣で未成年である息子が武器を片手に持っていたことも無視できない事実である。また、武器を未成年者に渡したという事実は、相応の機関による検証と反応が必要であると注意を向けた。

(了)